

みちしるべ

日本福音ルーテル教会
九州教区女性会

主題聖句

「そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」使徒言行録2章46-47節

発行代表者 原 真理
編集者 樂 満 春 子
印刷所 ヤマダスピード製版



平和への道
佐賀 八幡 教会牧師 岩切 雄太

私たちは、自らの過ち(過ちを犯す可能性)を認めることが嫌いですし、自分はだめなやつだと思うよりも、自分は正しい(正しい側にいる)と思いたい心を持っていてるような気がします。というのも、そのほうが心地よいからです。

しかし、平和とは、自分は正しい(正しい側にいる)という「自足的な思い」から生まれるのでしょうか。「自足的な思い」は、自分と違う他者の意見に耳を傾けることが苦手です。「自足的な思い」は、他者の意見に耳を傾け襟を正すことを必要としないからです。ここから、自分の意見に耳を傾ける者だけを求め、自分の意見に耳を傾けない者を退け(あるいは攻撃し)ていく心が生ま

れるのでしょうか。

そう、人と人の争い、戦争はこうして始まるのです。

そうであるのなら、平和について考えるとは、平和を実現しようとする歩みは、これと反対の歩みになるのではないのでしょうか。

つまり、私たちが自分自身の過ち(過ちを犯す可能性)を直視することから出発する、ということですから。

大沼保昭さんは「東京裁判から戦後責任の思想へ」という著書の中で、次のように言っています。『むろん、私たち大多数の人間は凡人であつて英雄ではない。そうで在る以上、実際に戦争になってしまつたら、たとえそれが不義の戦いとわかつていても、国家命令への不服従

という行動はとれないかもしれない。しかし、そのような弱い私たちでも、勇気ある行動をとる人々をひそかに励まし、あるいはすくなくとも「村八分」にしないことはできる。そして何よりも、私たちは戦争になつてしまえば国家命令に抵抗できないうる自分の弱さを知っているからこそ、自分をそのような状況に追い込まないよう、弱い自分でも声を出すことのできるうちに、戦争に向かうような国家政策に対しては、「否」といっておかなければならない。』

私たちキリスト者は、「平和」について語るとき、正義の美旗をふつていないでしょうか。私たちは、そうではなく、弱い自分を見つめる目を大切にし、意見の異なる他者の声に耳を傾け、謙虚に、誠実に、できることを一歩一歩行おう者でありたい、と思います。



熊本地震から8ヶ月・・・

主の御名を賛美いたします。

この度の熊本地震で皆様から、女性会連盟を通して、または直接に、義援金 957,652 円が九州教区女性会に届けられました。熊本地震で被害にあわれた方々の痛みに寄り添い、尊いご支援のお心をお届けくださいましたことに、心より深く感謝申し上げます。少しでも、被害にあわれた方々の慰めになるように使ってほしいという思いを託されて、役員会で話し合った結果、各教会に調べていただいた女性会員の皆様の被害状況に応じて、15教会、60名以上にお見舞金をお送りさせていただきました。九州教区女性会も緊急支援として、この義援金活動に参加しましたので、総額は106万円となりました。

被害にあわれた方々に、主からのお慰めと復興への力が増し加えられますようにお祈りいたします。

九州教区女性会 会長 原 真理



★この度は、お見舞いをいただき有難うございました。

目の前にある仕事をこなしているうちに、7カ月が過ぎてしまいました。私の住まいは震源の益城町ですので、家は半壊した上、なお続く強い余震に不安な時をすごしました。お陰さまで、5月の連休までは、職場である神水幼稚園で、在園児のための避難所の働きをしながら過ごし、その後は教会の副牧師館に住まわせていただきました。やっと、家の復旧工事が始まりますので、11月から自宅に戻りました。地元では7カ月が過ぎやっと解体や修理が進みはじめました。更地が増え、被害の大きさを感じます。職場には、家が全壊し仮設住宅から出勤する職員もおります。それでも身の回りには悲観的な方より、前向きに過ごされる方が多いように思います。

大切な方を亡くし、悲しみの中に居られる方を覚えつつも、季節・時間帯・津波被害・放射能被害などすべての点で、被害が最小におさえられたと感謝しております。

神様の恵みと皆様の祈りに心から感謝いたします。

神水教会 牧野 恵子

★この度、思いがけなくも、心のこもった見舞金を頂き有り難うございました。

私達は、皆が被害者といえるような状況の中で大なり小なりのダメージを受けました。このような私たちに、皆様方から大変な心配りをいただき感謝です。

今回の地震では色々な想いを致しました。特に、二度と味わいたくない物凄い恐怖と、言い尽くせない人々の温かさです。

私たちが聖書のみ言葉に癒され、つき動かされたことは申すまでもありません。

これから希望を持ち、一足一足前に進んで行きます。皆様の上に神様の祝福を祈ります。

大江教会 岩崎 佳子

★地震に遭うとは思ってもしなかった日から半年以上が経ちましたが、まだまだ大変だなと思う日々です。神様、牧師先生方・教会員同士、町や他県からの応援の方、本当に多くの方々に大きなお支えをいただきました。また今回、教区女性会の皆様からの温かい励ましをいただきありがとうございます。不安は多いのですが、必ず道を備えて下さる神様を信じ、皆様のお祈りに感謝しつつ毎日を過ごしていきます。

健軍教会 奥野 眞知子



中高生キャンプ in 長崎教会

少し不安もあったが、仲良くなれて良かった。ギターに合わせて歌った事が心に残ったし、楽しかった。

唐津教会 岡 喜平(中学2年)



初めての中高生キャンプで、不安や戸惑いもあったけど、新しい友達もできて、とても楽しかったです。

唐津教会 鈴木 類(中学2年)

九州教区中高生キャンプは8月10日～12日、長崎教会を会場に行われました。阿蘇山荘が震災で使用不可能となり、キャンプの中止も考えました。しかし、牧師常駐がない長崎教会をお借りし実施することにしました。長崎・ナガサキで「平和を創り出す」～過去、いま、そして未来に～をテーマに行われました。参加者スタッフあわせて35名が集いました。長崎教会女性会の全面協力をいただき、食住も満たされました。教会員の2人の姉妹からの被爆証言・平和フィールドトリップで内容がとても深いキャンプとなりました。

教育部長 立野 泰博

今からは考えられないほど暑かったので、特に私が案内した碑巡りはきつかったと思います。でも文句ひとつ言わず最後まで説明を聞いてくれました。夜の武市さん、藤本さんの被爆体験の話も真剣に聞いていました。平和をテーマにしたキャンプの目的を果たせたと思います。高3の次男も参加しましたが、とても楽しそうで仲間がいるっていいなあと思いました。自由な雰囲気もよかったです。長崎教会が若い人の存在で活性化しました。元気が出ました。やってよかったです。

長崎教会 廣瀬美由紀

平和を創り出す

2016年の夏キャンは長崎で「平和」について考えました。

博多教会 重富 泉(高校1年)

最初は日本の中の平和についてです。被爆者証言では、今過ごしている自分の環境とどれだけ違うのか改めて思い知らされました。戦争は知らぬ間に、気づかぬうちに始まっていくのだそうです。そのことに恐怖を感じました。ですが、私達の住む日本は71年間戦争をしてこなかった平和な国として歩んできました。でも、戦争をしないことだけが本当の平和なののでしょうか。それは消極的な平和に過ぎませんし、実際戦後、形を変え続けてきた自衛隊にかかる巨額の資金や憲法第9条など、問題はまだまだありそうです。

次に世界の平和です。世界ではまだまだたくさんの核兵器が眠っています。その数はなんと約15,350個です！1000個もあれば世界をつぶせるのではないかとされているので、この数を見ると人間の愚かさが、欲深さが、無計画性が浮き彫りになってくるのではないのでしょうか。最初に聞いたとき、馬鹿なんじゃないの？と思いました。使う当たらない核兵器を作るために巨額のお金をかけ、相手を威嚇する。そんな方法しかとれないことが残念で仕方ありません。このキャンプの中で、私は戦争をせずに世界を変えていく方法はないのか考えました。でも残念ながら見つかりませんでした。今のところ、武力を武力や経済などの力で押さえ込むという方法しかないようです。戦争で一人倒れば、その人の可能性を輝かしい未来を奪うことになります。力を力で押さえれば不満が残るのではないのでしょうか。人間の「可能性」を守ることは、自分と社会の「未来」を築いていく事にもなります。私はこれからも聖書や礼拝などを通してどうしたら本当の平和が実現できるのか考えていきたいです。

平和を実現する人々は、幸いである、その人は神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書5章9節)

最後に、このキャンプのために携わってくれたスタッフ、女性会の皆様、キャンパー、家族、そして博多教会の皆様に感謝申し上げます。



マイストーリー

「私の求道生活」

甘木教会 近藤 郁子



バザーの後、ご家族の皆さんと。

教会にうかがうようになって50数年。年月は長いのですが、仕事、結婚、子育てと、忙しい毎日のしわよせが日曜日に来て、毎週の出席はできませんでした。が、母親の胎内にいた時から信仰心を育まれた夫の背中を見ながら、教えられる事の多い毎日でした。子ども達にどのような影響があったかは分かりませんが、素直に優しく育ててくれて感謝しています。子ども達も、又いつか教会につながる生活をもつことができればと願っております。

退職後、皆様から受けたご恩の万分の一でもお返しする事ができたらと思いたち、今の私にできる事はお茶のお稽古だと、教会附属の甘木聖和幼稚園にお茶を教えさせてほしいと申し出ました。幼稚園の子どもにお茶ですか？と驚かれましたが、むづかしい事はしないで、正座の仕方、真のおじぎ、お菓子の運び方、いただき方、お抹茶を点ててお客様にお出しする、お抹茶のいただき方など、基本的な事を教えています。子ども達も興味をもって、月に一回のお稽古を楽しみに待っていてくれるようで、嬉しく思います。私も子ども達から元気をもらっています。

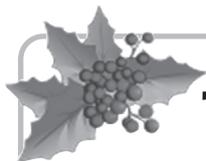
今迄、病気らしい病気もしないで元気でいられるのは、まわりの方々との交流、お抹茶を飲む習慣もあるのではと思い、これらの事を今後も続けて、元気に過ごしたいと思っております。

受洗:2008年12月14日

好きな聖句:ルカによる福音書7章47節

「赦されることの少ないものは愛することも少ない。」

好きな讃美歌:285番「主よ御手もて」



女性会連盟より

東京での女性会連盟総大会の折り、TNGより各教会へ『TNG伝道グッズ 見本&注文用紙』のファイルをお配りいたしました。そちらに申し込み先である宣教室のFAX番号が、このたび変わりました。変更をよろしく申し上げます。

旧 FAX番号 (03)3260-1948

→ 新 FAX番号 (03)3260-8641

TNGグッズ担当 浅野 聖子



中高生キャンプ in 長崎教会

少し不安もあったが、仲良くなれて良かった。ギターに合わせて歌った事が心に残ったし、楽しかった。

唐津教会 岡 喜平(中学2年)



初めての中高生キャンプで、不安や戸惑いもあったけど、新しい友達もできて、とても楽しかったです。

唐津教会 鈴木 類(中学2年)

九州教区中高生キャンプは8月10日～12日、長崎教会を会場に行われました。阿蘇山荘が震災で使用不可能となり、キャンプの中止も考えました。しかし、牧師常駐がない長崎教会をお借りし実施することにしました。長崎・ナガサキで「平和を創り出す」～過去、いま、そして未来に～をテーマに行われました。参加者スタッフあわせて35名が集いました。長崎教会女性会の全面協力をいただき、食住も満たされました。教会員の2人の姉妹からの被爆証言・平和フィールドトリップで内容がとても深いキャンプとなりました。

教育部長 立野 泰博

今からは考えられないほど暑かったので、特に私が案内した碑巡りはきつかったと思います。でも文句ひとつ言わず最後まで説明を聞いてくれました。夜の武市さん、藤本さんの被爆体験の話も真剣に聞いていました。平和をテーマにしたキャンプの目的を果たせたと思います。高3の次男も参加しましたが、とても楽しそうで仲間がいるっていいなあと思いました。自由な雰囲気もよかったです。長崎教会が若い人の存在で活性化しました。元気が出ました。やってよかったです。

長崎教会 廣瀬美由紀

平和を創り出す

2016年の夏キャンは長崎で「平和」について考えました。

博多教会 重富 泉(高校1年)

最初は日本の中の平和についてです。被爆者証言では、今過ごしている自分の環境とどれだけ違うのか改めて思い知らされました。戦争は知らぬ間に、気づかぬうちに始まっていくのだそうです。そのことに恐怖を感じました。ですが、私達の住む日本は71年間戦争をしてこなかった平和な国として歩んできました。でも、戦争をしないことだけが本当の平和なののでしょうか。それは消極的な平和に過ぎませんし、実際戦後、形を変え続けてきた自衛隊にかかる巨額の資金や憲法第9条など、問題はまだまだありそうです。

次に世界の平和です。世界ではまだまだたくさんの核兵器が眠っています。その数はなんと約15,350個です！1000個もあれば世界をつぶせるのではないかとされているので、この数を見ると人間の愚かさが、欲深さが、無計画性が浮き彫りになってくるのではないのでしょうか。最初に聞いたとき、馬鹿なんじゃないの？と思いました。使う当たりのない核兵器を作るために巨額のお金をかけ、相手を威嚇する。そんな方法しかとれないことが残念で仕方ありません。このキャンプの中で、私は戦争をせずに世界を変えていく方法はないのか考えました。でも残念ながら見つかりませんでした。今のところ、武力を武力や経済などの力で押さえ込むという方法しかないようです。戦争で一人倒れば、その人の可能性を輝かしい未来を奪うことになります。力を力で押さえれば不満が残るのではないのでしょうか。人間の「可能性」を守ることは、自分と社会の「未来」を築いていく事にもなります。私はこれからも聖書や礼拝などを通してどうしたら本当の平和が実現できるのか考えていきたいです。

平和を実現する人々は、幸いである、その人は神の子と呼ばれる。

(マタイによる福音書5章9節)

最後に、このキャンプのために携わってくれたスタッフ、女性会の皆様、キャンパー、家族、そして博多教会の皆様にご感謝申し上げます。



「私の求道生活」

甘木教会 近藤 郁子



バザーの後、ご家族の皆さんと。

教会にうかがうようになって50数年。年月は長いのですが、仕事、結婚、子育てと、忙しい毎日のしわよせが日曜日に来て、毎週の出席はできませんでした。が、母親の胎内にいた時から信仰心を育まれた夫の背中を見ながら、教えられる事の多い毎日でした。子ども達にどのような影響があったかは分かりませんが、素直に優しく育ててくれて感謝しています。子ども達も、又いつか教会につながる生活をもつことができればと願っております。

退職後、皆様から受けたご恩の万分の一でもお返しする事ができたらと思いたち、今の私にできる事はお茶のお稽古だと、教会附属の甘木聖幼稚園にお茶を教えさせてほしいと申し出ました。幼稚園の子どもにお茶ですか？と驚かれましたが、むづかしい事はしないで、正座の仕方、真のおじぎ、お菓子の運び方、いただき方、お抹茶を点ててお客様にお出しする、お抹茶のいただき方など、基本的な事を教えています。子ども達も興味をもって、月に一回のお稽古を楽しみに待っていてくれるようで、嬉しく思います。私も子ども達から元気をもらっています。

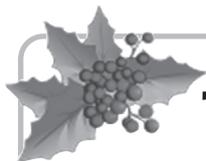
今迄、病気らしい病気もしないで元気でいられるのは、まわりの方々との交流、お抹茶を飲む習慣もあるのではと思い、これらの事を今後も続けて、元気に過ごしたいと思っております。

受洗:2008年12月14日

好きな聖句:ルカによる福音書7章47節

「赦されることの少ないものは愛することも少ない。」

好きな讃美歌:285番「主よ御手もて」



女性会連盟より

東京での女性会連盟総大会の折り、TNGより各教会へ『TNG伝道グッズ 見本&注文用紙』のファイルをお配りいたしました。そちらに申し込み先である宣教室のFAX番号が、このたび変わりました。変更をよろしく申し上げます。

旧 FAX番号 (03)3260-1948

→ 新 FAX番号 (03)3260-8641

TNGグッズ担当 浅野 聖子



マイストーリー

「御言葉の力」

田主丸教会 長澤 キクヨ

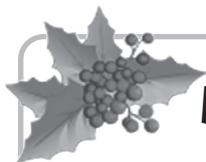


一年足らずの間に、身近な人や教会関係の数人の方が天に召されました。それぞれの人の葬儀に参列して感じたことは、しっかりとした信念、信仰を持っておられ、生きた証を確実に残しておりました。

青春時代、自分は「何故生きていかなければいけないのか」と悩み、教会の門をくぐりました。聖書の御言葉に学び、洗礼を受けて五十年を過ぎました。結婚、育児と夢中で過ごした日々の中、振り返ってみますと、どんな時でも御言葉に支えられていたことを覚えます。

昨年八月、人工関節置替手術を受けました。多くの不安を抱え、シルバープロジェクトの冊子（いこいのみぎわ）を持って一ヶ月余りの入院生活をおくりました。

「恐れることはない。私はあなたと共にいる神。たじろぐな。私はあなたの神である。勢いを与えてあなたを助け、私の右の手であなたを支える。（イザヤ書：41章10節）」平安のうちに手術を受けることができました。移り替わる人、部屋の移動。四人部屋の生活は、年令も違い、術後の良悪、個性のぶつかりあい、決して良いものではありませんでした。何度も冊子（いこいのみぎわ）を読み讃美歌を歌い祈りました。自然と交わりもなごやかになり、退院をする頃には住所を教え合うようになりました。私にとって貴重な体験でした。聖書の御言葉は人を導いてくれる尊いものです。天に召されるまで学んでいきたいと思っています。



鹿児島教会訪問

熊本教会 杉本 範子



今年3月末の土曜日、鹿児島教会を訪ね、聖日礼拝を共にした。出席者数名の礼拝であったけれど、確かな信仰の喜びをいただいて家路に着いた。

「若い時一緒に洗礼を受けた方々も、皆よそに行かれ、もどってきていない。今、このような現状であるけれど、教会の灯火は消したくない。」と話された女性は、連盟に個人で加入され、教会の管理もされている。神様への賛美は人数ではなく、神様に向き合う真摯な心にあることに気付かされた。

鹿児島教会 主日礼拝：毎週土曜日 10：30 より
ウェブサイト：lutheran-kagoshima.blogspot.jp

第23期女性会連盟 第1回合同役員会

女性会連盟合同役員会に参加して… 原 真理

6月21～23日の日程で、仙台教会において合同役員会が行われました。被災地を訪問し、今の福島の実況を見て、支援のあり方について考える時間を持つためでしたが、4月に熊本の大地震があり、被災地から被災地へ訪問するという形になってしまいました。各教区女性会役員の皆様より、すぐに各教区で熊本のために祈りの時間をとられ、また献金も集まっていることをお伺いしました。知りうる限りの情報をお伝えし、お祈りによる支えをさらにお願ひ致しました。そして、仮設住宅に住んでおられる方々をお訪ねすると、まず「熊本は大丈夫ですか？どんな状況ですか？」といわれます。熊本の方もそうですが、自らが被災していても他の人を思いやるお気持ちをとても豊かに持っておられる、これが絆だと感じました。住むところは離れていても、その地に住む人々のことを思い、祈る。何かできることはないかと考えることの大切さを、強く感じました。



主な活動報告

- ・常議員会陪席
 - 7/19 教区事務所
 - 11/19 教区事務所
- ・筑後地区女性会 平和礼拝修養会
 - 8/20 久留米教会
- ・壮年会連盟 修養会講演会
 - 9/22 大牟田教会
- ・熊本地区女性会 秋の集い
 - 10/22 神水教会
- ・役員会 (第8回)
 - 10/29 熊本教会
- ・会計：教区教育部へ支援金納入
 - (こどもキャンプ・中高生
 - キャンプ・青年会修養会)
 - 7/3 各5万円
- 「いこいのみぎわ」発送
 - 日吉・熊本・長崎・東京教会
 - 北海道女性会 (河野姉に委託)
 - 残り約30冊
- 連盟後期会費依頼と
 - ACWC 署名キャンペーン文書発送
 - 連盟後期会費納入 11/29
- ・女性会連盟担当：
 - 連盟会報誌 153号発行
 - ・第100号「みちしるべ」発行
 - 発送作業 12/14 久留米教会

ぜひご参加
下さい!

九州教区女性会の集い



と き：2017年2月25日(土)
 ところ：熊本教会 (096-352-1772)
 じかん：受付……………12:30～
 礼拝……………13:00～13:15
 報告と話し合い…13:20～14:00
 ティータイム…14:00～14:20

 講演……………14:30～15:45
 「終の棲家について」
 ◆講師：杉本 範子
 ◆講師紹介：目白大学非常勤講師、
 大牟田市「住みよかネット」
 立ち上げ参加
 終わりの礼拝……………15:45～16:00
 ※詳細は後日、各女性会へお知らせいたします。



編集後記

クリスマスの喜びのうちに「みちしるべ第100号」を発行することができ感謝します。ご協力ありがとうございました。世界の平和について考えることの多い昨今ですが、私達が平和の種を蒔いていけたら幸いです。それぞれの場所で、どうぞ良いクリスマスをお過ごし下さい。
 (樂満)

ご召天

大楠 尚子姉	87歳	田主丸教会	2016年6月14日
西岡 景子姉	63歳	唐津教会	2016年6月15日
真木 典子姉	87歳	久留米教会	2016年8月25日
室園 勝枝姉	87歳	久留米教会	2016年10月16日

ご家族の皆様の上へ、主の慰めがありますよう、お祈り申し上げます。